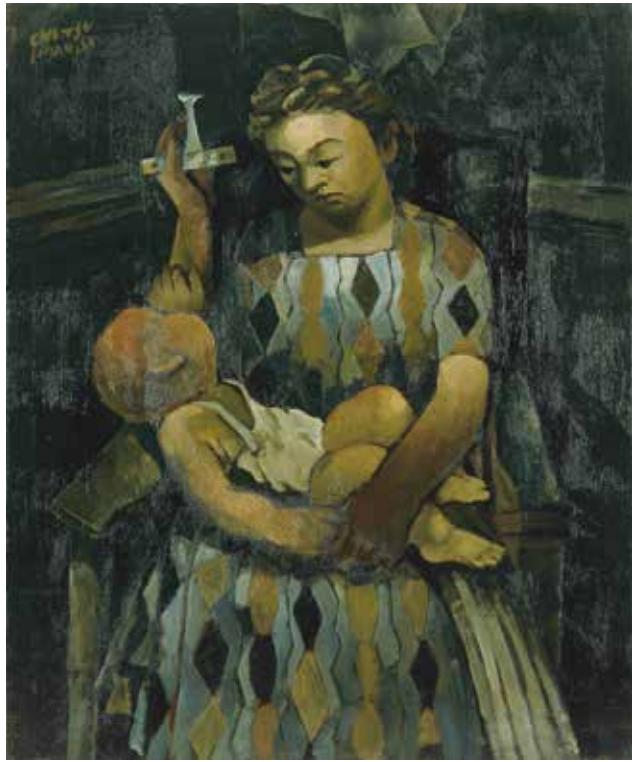


THE ROOF



2 今西中通 《子供を抱く女》 1943(昭和18)年頃 油彩・キャンバス
郡山市立美術館蔵

1・2 「戦争と子どもたち」展出品



1 松本俊介 《りんご》 1944(昭和19)年 油彩・板
個人蔵（板橋区立美術館寄託）

Contents

- 企画展「戦後80年 戦争と子どもたち」
- 企画展「北斎・広重 大浮世絵展」
- 寄稿 「アート・カフェ “マイセン磁器とコーヒー”」を終えて」
- 報告「郡山市名誉市民 西田敏行展 愛してるぞ～い！」
- Report
- Information

戦争と子どもたち



図1 青柳喜兵衛 《天翔ける神々》 1937(昭和12)年
油彩・キャンバス 北九州市立美術館蔵

今から約80年前、美術家たちは戦中・戦後を生きる子どもたちをどのように表現したのでしょうか。また、当時の子どもたちはどのような美術に触れていたのでしょうか。本展では、日中戦争開戦の1937（昭和12）年から、終戦後GHQによる実質的な占領下に

あつた1949（昭和24）年までに制作された「子ども」をめぐる美術に焦点を当て、ご紹介します。

1920年代から30年代にかけて、大正期の自由主義的な思想の流れを受け、純粹で無垢な子どもたちのイメージが

広まります。画家たちもまた、あどけない表情で無邪気に遊ぶ子どもらしい姿を描きました。青柳喜兵衛の『天翔ける神々』(図1)には、虎張子にまたがり、右手に八朔の節供を祝う玩具を持つ子どもが描かれます。モデルは1935(昭和10)年に幼くして亡くなった画家の次男で、子どもの成長を願う玩具に愛児への想いを託しています。

子どもらしさをあらわすモティーフとして描かれていた玩具も、次第に時局を反映したものへと変化していきました。会津若松市出身の渡部菊二による『戦国の少年』(図2)では、少年の足元に玩具の戦車が描かれています。玩具のみならず、少年が身につけているものは勲章やラッパ、日の丸の旗に小銃、刀といった戦争に関わるモティーフであり、戦時下であるということにハツとさせられます。

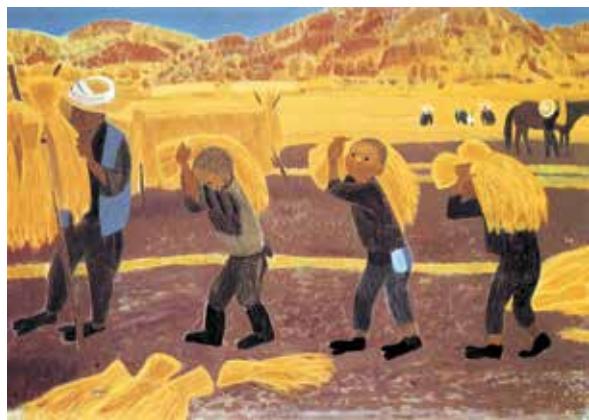


図4 中尾彰 《勤労奉仕》 1944(昭和19)年
油彩・キャンバス 茅野市立北山小学校蔵



図3 浜松小源太 《遺児すこやか》 1941(昭和16)年
油彩・キャンバス 大館郷土博物館蔵

1941（昭和16）年12月の対米英開戦以降、日本は本格的な総力戦体制に入り、子どもたちの生活からも自由が奪われ、社会全体が戦争一色に染まつ

ていきました。出征の見送りや戦死の知らせを受ける場面も描かれるようになります。小学校の教師をしていた浜松小源太は、教え子が遺児となり、靖国神社へ参拝することを知り、『遺児すこやか』(図3)を制作しました。険しい山並みの手前に刀を携え、日の丸の旗を手にする幼子を大きく描いたシュルレアリスム風の作品です。自身の子をモデルに描いていますが、浜松は1945(昭和20)年、戦地で行方不明、戦死の扱いとされたため、自身の子も遺児となつてしましました。

疎開先で農作業に勤しむ子どもたちの様子です。童画も手がけた中尾らしく、穏やかで、どこか愛らしささえ感じさせますが、ここにいるのは、戦時の理念に従い、勤労奉仕に励む子どもたちなのです。

戦時下の重苦しい空氣の中、画家たちにとつて子どもたちは小さな希望の光でもありました。福島市出身の吉井忠は、1942(昭和17)年に自身の長女を描いています(図5)。制作時、2歳8ヶ月であつた長女の少し成長した姿を想像して描いたようです。自由に

1945(昭和20)年8月15日、15年にも及んだ戦争は終わりを迎えます。しかし、焼け野原になつた終戦直後の街には、家族や住まいを失つた戦災孤児の姿がありました。樋原健三は『街頭にて』(図6)で、戦争によって傷つけられた子どもたちに目を背けることなく真正面から描いています。

戦後、「なにも知らない、ただ生命力をもつ子供はわたしたちの力になつた」と語つた麻生三郎は、戦中から戦後にかけて多くの子ども像を描きました。『子供』(図7)は、戦争末期に生まれた長女が4歳になつた姿を描いた作品で、頬や唇は赤みを帯び、愛らしい表情でこちらを向いています。占領下にあつたとはいえ、民主主義教育が始ま



図5 吉井忠 『少女像』 1942(昭和17)年
油彩・キャンバス 個人蔵



図6 樋原健三 『街頭にて』 1946(昭和21)年
油彩・キャンバス 個人蔵

企画展

「戦後80年 戦争と子どもたち」

2026年1月31日(土)~3月22日(日)

※会期中、一部展示替えをおこないます。

開館時間:午前9時30分~午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日:毎週月曜日(2月23日は開館、翌日休館)

入場料:一般/800(640)円

高校・大学生、65歳以上/500(400)円

※()内は20名以上の団体料金

※中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料

主催:郡山市立美術館

スム風の作品です。自身の子をモデルに描いていますが、浜松は1945(昭和20)年、戦地で行方不明、戦死の扱いとされたため、自身の子も遺児となつてしましました。

戦時下の重苦しい空氣の中、画家たちにとつて子どもたちは小さな希望の光でもありました。福島市出身の吉井忠は、1942(昭和17)年に自身の長女を描いています(図5)。制作時、2歳8ヶ月であつた長女の少し成長した姿を想像して描いたようです。自由に

描き、作品を発表することが困難であつた時代、子どもたちは画家の制作の喜びに改めて気づかせてくれる、かけがえのない存在でした。

り、子どもたちが“子どもらしさ”を取り戻す時代が幕を開け、画家たちもまた、「戦後」という新しい時代への希望を子どもたちに託しました。

(塚本敬介)



図7 麻生三郎 『子供』 1948(昭和23)年
油彩・キャンバス 弥栄画廊蔵

北斎・広重

大浮世絵展



図1 葛飾北斎 富嶽三十六景 神奈川沖浪裏 大判錦絵 1831(天保2)年頃

葛飾北斎（1760—1849）と歌川広重（1797—1858）、一度はその名前を耳にしたことがあるでしょう。兩者ともに国内外において絶大な人気を誇る浮世絵師です。この春、浮世絵界の二大巨匠、北斎と広重の代表作が郡山にやつて来ます。

葛飾北斎は、江戸の本所割下水に生まれました。幼少期より絵を好み、19歳で勝川春章に入門したとされ、その後は、巧みな線によ



図2 歌川広重 東海道五拾三次之内 日本橋 朝之景 大判錦絵 1833(天保4)年頃

る大胆な構図と独自の色使いで多くの作品を生み出し、晩年は「画狂老人」の号を用い、約70年の長きにわたり筆を執り続けました。なかでも、場所や時間、季節によってさまざまな姿を見せる富士を描いた揃物「富嶽三十六景」は、北斎の全画業を代表する作品です。《神奈川沖浪裏》（図1）は、2024（令和6）年7月に発行された新千円札裏面の図柄にも採用され、話題となりました。

一方の歌川広重は、江戸八代洲河岸の

定火消同心の安藤家に生まれます。北斎同様、幼い頃から絵を好んで、1811（文政元）年頃に歌川豊広の弟子となりました。その後、師匠の豊広と本名の重右衛門からそれぞれ一字をとつた「広重」の号で作品を発表するようになります。はじめは役者絵や美人画をてがけますが、天保期には抒情的な風景画で人気を博します。東海道筋の風景や旅の風俗を描いた全55図からなる揃物「東海道五拾三次之内」（図2）は、広重の代表作です。また、広重最晩年の「名所江戸百景」には、江戸の名所が縦長の画面に縦横無尽な視点から描かれ、『大はしあたけの夕立』と『亀戸梅屋舗』（図3）は、オランダの画家フィンセント・ファン・ゴッホが油絵で模写したことでも知られています。

本展では、日本屈指の浮世絵蒐集家、中右瑛氏のコレクションから、版画のみならず肉筆画（図4）も含めた北斎

と広重の名品約200点を選びすぐつてご紹介します。北斎と広重、夢の競演をお楽しみください。
（塚本敬介）



図3 歌川広重 名所江戸百景 亀戸梅屋舗 大判錦絵 1857(安政4)年



図4 葛飾北斎 北斎自画像 紙本着色

企画展

北斎・広重 大浮世絵展 ~二大巨匠!夢の競演~

2026年4月18日(土)~6月21日(日)

休館日:毎週月曜日(5月4日は開館)

入場料:一般/1,500(1,300)円

高校・大学生/1,000(800)円

※()内は前売り、20名以上の団体料金

※中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料

主催:北斎・広重 大浮世絵展実行委員会

郡山市立美術館・福島中央テレビ・福島民友新聞社

監修:中右瑛(国際浮世絵学会常任理事)

企画協力:ステップ・イースト

「アート・カフェ ”マイセン磁器とコーヒー“ を終えて

勝川 達哉（アンティークアーカイヴオーナー）



アート・カフェ 「マイセン磁器とコーヒー」

講師：勝川達哉さん
(アンティークアーカイヴオーナー)
日時：12月13日(土)、14日(日)
場所：美術館カフェ「juju 130 CAFE」

カフェの大きなヴィンドウ越しに、夕日が冬木立に当たって赤く輝いている。もう少しすると、あたりは黄昏のブルーに変わるだろう。この夕景を背にして「アート・カフェ」のイベントを午後四時に始めるという美術館の試みは正解だつたなと思った。カフェに続く廊下には、すでに開場を待っているお客様の姿が見える。

カフェのドアが開き、定刻に「アート・カフェ」マイセン磁器とコーヒー」が始まった。お客様には、お好きなカップ＆ソーサーを選んで席に着いて頂いていた。講義を聞くような緊張感は避けた。講義を聞くようだ。緊張感は避けたので、クリスマス柄のペーパーナップキンをテーブルに用意しておいた。カフェという場所もあって、多くのお客様が微笑んでいるように見えた。

やがて豊潤な香りがカフェに立ち込め、暖かいコーヒーがマイセンのカップに注がれる。そして、特別にお願いしていたデザートプレートがテーブルに運ばれてきた。ドイツのクリスマス菓子であるシュトレンと特製のティラミスに、フルーツが可愛く品良く盛り付けられている。この頃には、初対面であるはずのお客様同士での会話があ

た。講義を聞くようだ。緊張感は避けたので、クリスマス柄のペーパーナップキンをテーブルに用意しておいた。カフェという場所もあって、多くのお客様が微笑んでいるように見えた。

やがて豊潤な香りがカフェに立ち込め、暖かいコーヒーがマイセンのカップに注がれる。そして、特別にお願いしていたデザートプレートがテーブルに運ばれてきた。ドイツのクリスマス菓子であるシュトレンと特製のティラミスに、フルーツが可愛く品良く盛り付けられている。この頃には、初対面であるはずのお客様同士での会話があつた。講義を聞くようだ。緊張感は避けたので、クリスマス柄のペーパーナップキンをテーブルに用意しておいた。カフェという場所もあって、多くのお客様が微笑んでいるように見えた。

このイベントでは、マイセンの歴史やヴエルナー教授のデザインについて、エピソードを交えて解説した。決して上手くはない私の話を真剣に聞いてくださるお客様の様子に、感謝の気持ちが湧き出てくる。質問がでるかと心配していた終盤の質問コーナーでも、たくさんのご発言を頂き、予定していた時間が足りないほどであった。

イベントが終了するころはすっかり暗くなり、美術館で華やいでいるのは私たちのいるカフェだけのようであった。皆様の心のこもった拍手を頂き、イベントは無事終了した。お客様が少しずつ帰られ、最後のおひとりを見送ると、皆ほつとしてお互いの顔を見合せた。

巨匠ハインツ・ヴェルナーの描いた物語 現代マイセンの磁器芸術

2025年11月22日(土)～2026年1月18日(日)

報告

講演会 「響き合う二つの陶磁器の調べ 柿右衛門～マイセン 巨匠ハインツ・ヴェルナーのメルヘンの世界へようこそ」

講師：荒川正明さん(学習院大学教授、本展監修者)

日時：2025年11月23日(日)

場所：多目的スタジオ

ワークショップ

「自分だけのクリスマスプレートをデザインしよう」

日時：2025年12月21日(日)

場所：階段ホール

5 THE
ROOF 67

報 告

西田敏行展

愛してゐぞ～い！

令和6年10月、郡山市出身の俳優
西田敏行さんが逝去されました。

稀代の名優であり、唯一無二の歌
手であり、故郷福島を、郡山を、
こよなく愛した西田敏行さん。その
愛と軌跡を振り返る展覧会が、郡山
市立美術館「名優・西田敏行」、郡山
市歴史情報博物館「郡山人・西田敏行」、
タワーレコード郡山店「西田敏行と音
楽」として、9月6日から28日まで3
カ所同時に開催されました。それぞれ
のテーマごとに西田さんの数々の功績
と魅力を紹介した展示会場に、ファン
ばかりでなく多くの市民に足を運んで
いただきました。

当館では出演映画やドラマなどの
スチール写真やプログラム、掲載雑
誌などを展示。西田さんの若かりし
日の姿や、さまざまな役を演じる人
間味あふれる表情に、若い世代も見
入っていました。

また特別イベントとしてスペシャル
トーク「ボクらにとつての西田敏行さ
ん」と大合唱「みんなで歌う『もしも
ピアノが弾けたなら』」、名作映画鑑賞
会を開催。そのほか、展示会場を巡る
スタンプラリーも好評でした。
幅広くご活躍された西田さんのご
冥福をお祈りいたします。



●スペシャルトーク
ボクらにとつての西田敏行さん

宮藤官九郎さん（脚本家）

×

箭内道彦さん（クリエイティブディレクター）



日時：9月13日（土） 13:00～15:00



●大合唱 みんなで歌う

「もしもピアノが弾けたなら」

小原田小・中学校合唱部

郡山市名誉市民
西田敏行展 愛してゐぞ～い！

2025年9月6日（土）～28日（日）

●名作映画上映会「学校」

（1993年 松竹株式会社、日本テレビ放送網株式会社、
住友商事株式会社）

日時：9月7日（日） 14:00
場所：多目的スタジオ

●名作映画上映会「虹をつかむ男」

（1996年 松竹株式会社）

日時：9月27日（土） 18:00
場所：多目的スタジオ

MLA
連携事業

Museum（博物館・美術館）、Library（図書館）、Archives（公文書館）の頭文字をとって「MLA」と
称します。郡山市では、歴史情報博物館、美術館、中央図書館、中央公民館等の社会教育施設が連携
ながら、さまざまな文化芸術活動や読書活動の取り組みを行っています。



●「ブック・ナイト・マーケット」

2025年11月15日（土）

場所：郡山市公会堂前広場

●「MLA COMMONS LOUNGE vol.1～食とコモンズ～」

2025年11月24日（月・祝）

場所：郡山市中央公民館

●「令和7年度 リサイクルブックフェア」

2025年11月30日（日）

場所：郡山市中央図書館



Information

第59回子ども美術展

郡山市内の小学生の作品を一堂に展示し、優れた作品を奨励します。
会期：2026年1月31日（土）～2月8日（日）
会場：美術館ロビー、他
主催：郡山市小学校造形教育研究会
共催：郡山市教育委員会 協力：郡山市立美術館

コレクショントークやります！

4室ある常設展示室では5つのコーナーに分けて、担当者がテーマの設定、作品のセレクト、展示プラン作成をおこなっています。令和6年度最後の展示から、担当学芸員によるコレクショントークを開催。今年度第3期の「山本二三が敬愛した画家一大下藤次郎と『みづゑ』」と題した展示のトークには、企画展観覧後に大勢のご参加をいただきました。

今後も3ヶ月の展示替え毎にコレクショントークを開催しますので、ぜひご参加ください。（開催の期日は当館ホームページでお知らせしています。）



TOPICS



130 CAFE
ジュジュ イチサンマル カフェ

営業時間／11:00-17:00
電話／024-942-2250

ランチメニューのご案内

●週替わりワンプレートごはん 1300円(税込)

ランチタイムにおススメなワンプレートごはん。
新鮮なお野菜をたっぷりしようし、お肉や魚介の面印のおかずやカレーなどの煮込み料理などメニュー内容は毎週替わります。

●季節限定パスタ ミニサラダ付き 1390円(税込)

旬の食材を使用したパスタは不定期で内容が替わります。

☆ランチタイムサービス

15:00までにお食事をご注文のお客様に限り、お飲み物がセットになります。
(コーヒー・紅茶・ウーロン茶)

臨時休業や営業時間短縮の日もございます。あしからずご了承くださいませ。
みなさまのご来店をお待ちしております！

